

“生命を学ぶ”報告書

【ねらい】

蚕の飼育では、前年度に蚕蛾が生んだ卵を孵化させて、繭から生糸をとったり、そのまま蚕蛾として成長させ、翌年の為に卵を産ませている。その過程において、生かす繭を選別するなど、生命について考える体験をさせる。また、野菜の栽培は、毎年、土作りと畑作りから行い、水やりなどの世話をすることにより、野菜の生長には肥料や水などが必要であることを学ばせたり、収穫して料理をしてみんなで食べることによる食育としての教育活動も行う。これらの活動から自然の不思議さや生命のサイクルを気づかせる。

【指導内容】

春	<ul style="list-style-type: none">・前年度、蚕蛾が生んだ卵を孵化させて蚕へと成長させる。 繭となった蚕を、生糸をとる蚕と卵を産ませる蚕とを、園児たちと相談して選別し、茹でた繭から生糸や真綿などをとり、産まれた卵は、翌年まで冷蔵庫で保管し、生命のサイクルを学ぶ。・冬眠から覚めたカメやメダカに、餌やりやお散歩などの世話をする。カブト虫やアゲハ蝶などの卵や幼虫の世話をする。・園庭の畑やテラスのプランターの土づくりを行い、トマト、きゅうり、ナス、ピーマンなどの野菜の苗を植え、水やりなどの世話をする。
夏	<ul style="list-style-type: none">・カメやメダカの世話をする。・カブトムシやアゲハ蝶を成虫まで育てる。・春に植えた野菜を収穫し、野菜炒めなどのクッキングを行い、皆で食べる。
秋	<ul style="list-style-type: none">・カメやメダカの世話をする。・園庭の畑やテラスのプランターの土づくりを行い、大根、ほうれん草、カブなどの野菜の種をまき、水やりなどの世話をし、生長を観察する。
冬	<ul style="list-style-type: none">・カメが冬眠に入る為、冬眠の仕組みを学ぶ。・メダカの世話をする。・秋に植えた野菜を収穫し、味噌汁やスープ等のクッキングを行い、皆で食べる。

【活動報告】

《 春 》

「蚕の世話」

卵から羽化した蚕の幼虫を年長児が中心となりお世話をします。葉の裏側にも隠れている幼虫を、見落とさないように新しい桑の葉をたっぷり入れてあげます。幼虫のお肌はとっても滑らかで、「冷たくてきもちいい」と大切に触りました。



《カブト虫の世話》



年長組がテラスでカブト虫の土のフンを取り除くお仕事をしています。「お腹の内側の下の方に V の形が付いているのが雄だよ」と愛情を持ってお世話をしています。幼虫はいつも土の中にいて年中さんでも「元気かな？」と気に掛ける子が多く、土のお掃除の時だけはカブトムシの元気な様子が分かるので、人気のお仕事です。



《土づくりから苗植え》

野菜を育てるための土を作ります。掘り起こした土からは沢山の虫や黄金虫の幼虫が『こんにちは』。「キャー」という声や、「僕が捕まえてあげるよ！」と頼もしい声も聞かれ、沢山の土を畑に入れて、みんなで協力する大変さ、楽しさを味わいました。その後、土づくりをした畑やプランターにトマト、きゅうり、ナス、ピーマンなどの苗を植えました。

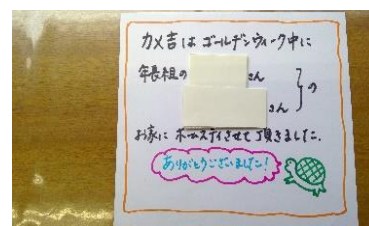
年長児の毎朝のお当番さんや年中児のリーダーさんが水やりを担当し、日々の生長の変化を朝の会で発表し合います。



《 夏 》

《カメの世話》

長期休みには“カメ吉”をホームステイして下さるご家庭を募集します。お預かり頂いたご家庭では家族の一員として大切に可愛がられ、最後のお別れには涙を流して「もっと一緒にいたい！」と別れを惜しむ子がいるほど。このホームステイも小さな命を大切にし心を寄せる、とても良い機会となっています。



《野菜の収穫からクッキングそして造形へ》

沢山の夏野菜が収穫出来たので、クッキングを行いました。コロナ前には園児たちが包丁を使って調理していましたが、今年は教師が調理するところを見学しました。野菜がここまで立派に育つにはお日様の光、水が必要だということも知らせながら収穫の喜び感謝の気持ちを持ちながら、サラダ、野菜炒めにして美味しく頂きました。お野菜が苦手なお友達も「美味しい！」と言って、幼稚園の食育を通して食べられるようになる子もいます。



スーパーで買うお野菜とはちょっと違って太かったり、ゴツゴツだったり。手に取り野菜の特徴を捉えながら、観察画を描きました。「きゅうりの小さいトゲトゲも描こう」、「ピーマンはピカピカだね」とお話ししながら、自分の表現したい色を調合して作る工程も楽しめます。



《カブト虫・蚕の世話》

園児のご家庭から頂いたカブト虫の幼虫が蛹になり、蚕のお家を作って観察しました。

蚕の幼虫が繭になり始めた頃、繭を茹でてきれいな生糸を紡ぐか、茹でずに蚕蛾にして卵を産ませるかの命の話し合いをします。話し合いは何度も繰り返され、小さな命について一人一人が真剣に向き合い考えて命の選別をします。「茹でてしまうのはかわいそう」「昔お着物を作るためにはきれいな生糸が必要だったけれど、私たちはお店屋さんではないから、蛾になった後の繭で生糸を紡ぐのはいかがでしょうか」など様々な意見が飛び交います。



全ての繭が蚕蛾になり交尾の様子も観察した子ども達。人間の遺伝子操作により蚕蛾は口がなく食べることが出来ず、卵を産む役目を果たすと亡くなってしまふ事を学び、「かわいそう」「卵を産んでくれてありがとう」など様々な感情を抱き、蚕の一生を通して小さな命に心通わせ、命について考えるとても貴重な経験をさせていただいた子ども達。蚕さんが一生懸命産んでくれた卵は、幼稚園の冷蔵庫で来年の春まで眠ることを伝え、命のサイクルについても学びの時となっています。



《 秋 》

《その他の生き物の世話》

園児が持ってきたメダカ、おたまじゃくしの世話を年中組が中心となり行います。『メダカの雄と雌の見分け方』や『水槽の中のタニシは水槽のお掃除屋さん!!』などのパネルを掲示して興味関心を持てるように工夫しています。“ダルマガエル”という種類のカエルのためなかなかカエルにならず、引き続きお世話する中で子どもたちが生態を図鑑で調べたりする姿も見られ、常に生き物が身近にあることで日々の小さな変化にも気付いたり大切にしようとする心が育っていると感じます。



《秋蒔き》

冬野菜を育てるために土作りを行いました。春に経験していたので「虫が出てきたら僕にまかせて！」「力を合わせて土を入れよう！」と年中組も積極的。クラスで何を育てるか話し合った結果、二十日大根、かぶ、ほうれん草、人参を育てることに決まり、プランターに種を蒔きました。お当番さんが水やりの時に「土の中から赤いのが見えてる！」「もう収穫できそうだよ」など変化や気づきを伝えあい生長を観察し、収穫を楽しみにしていました。



《冬》

《収穫からクッキングへ》

そして収穫の時。寒い冬空の下手を真っ赤にしながらか穫し水で綺麗に洗いました。「僕も掘りたい！」と年少さんも興味をもって見に来てお兄さんたちと一緒に収穫のお手伝い。「みてー！大きいのが抜けたよー」と満足気です。



園庭にかまどを用意し、豚汁作り。収穫したお野菜にこんにゃく、油揚げ、豚肉、などを加え、お手伝いのお母様方が切る様子をクラスごとに見学しました。



「いい匂いがしてきたー」と子どもたちが寄ってきます。かまどの横で、「あったかいねー」「木を燃やして火を起こすんだね！」などと話しながら物珍しそうに見学する子もいました。火の危険性も学びながら、とても貴重な経験になり、協力してくださった方、野菜が育った環境などすべての物に感謝の気持ちを持って美味しく豚汁をいただきました。お野菜苦手なお友達も野菜嫌いを克服したり、「おかわり！」の音が鳴り止まないクラスもあり大盛況でした。

《カメの冬眠》

カメ吉があまり動かなくなった事に気が付いた子ども達。「寒いからかな？」「前は葉っぱの中で冬眠していたよね」。冬眠に関する絵本を読んだりしてカメの生態にも興味を持てるようにしました。例年ですと水槽の中に葉っぱを敷き詰め冬眠させていましたが、高齢なこともあり今年度は冬眠せず、寒さ除けのダンボールの囲いを近くに置いて様子を見ることにしました。今年度は卒園式を見届けることが出来カメ吉も喜んでいと思います。春からまた新入園児を迎え、賑やかな幼稚園を園庭の片隅で見守ってくれるでしょう。

